

日本は、石油1億7535万トン+石炭輸入1億8900万トンからどのように、2050年にカーボンニュートラルを達成するのか-1

課題(発電について)

- > 発電を何に頼るのか...LNG(主成分はメタン(CH₄)、エタン(C₂H₆)ガス)、水素、アンモニア、太陽光、原子力...?
- > 約5割を超える廃棄電力・送電ロス改善は?
- > 家庭から排出される熱をどう削減するか(省エネ設備、断熱強化、メディア放映時間、インターネットの省エネ化)

日本は、石油1億7535万トン+石炭輸入1億8900万トンからどのように、2050年にカーボンニュートラルを達成するのか-2

課題(焼却設備について)

- > 家庭ゴミ(一般廃棄物)として排出されるプラスチックは、焼却施設の助燃剤として役立っているが...
- > 焼却施設の燃料くい虫①『生ごみ』の処理は(水分を除去、堆肥化、...)
- > 焼却施設の燃料くい虫②『紙おむつ』の処理は(水分の除去、紙や高分子ポリマーリサイクル、...)

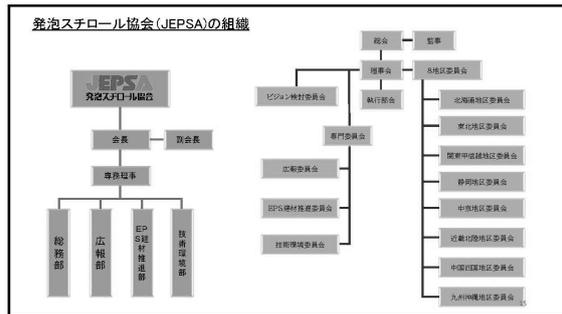
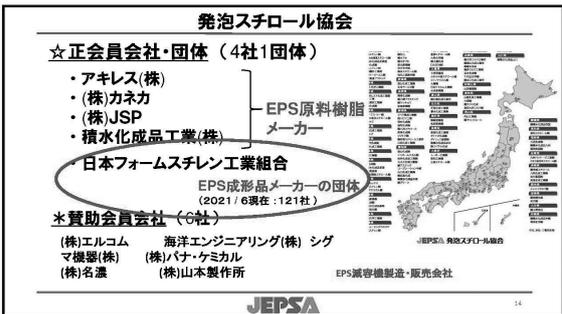
日本は、石油1億7535万トン(+石炭輸入1億8900万トン)からどのように、2050年にカーボンニュートラルを達成するのか-3

課題(企業活動・日常生活)

- > SDG's(達成する変革)アジェンダは2030年に間に合うのか
- > CSR(企業が持続発展するうえで、取り組まなければならない社会的責任)を理解し、すべての企業が取り組むことができるのか
- > 2050年、カーボンニュートラル社会とは、石油由来のプラスチックお世話ない社会?なの。動植物由来プラスチックで供給は間に合う?

龍野コルクはどのように、2030年の変革アジェンダと、2050年のカーボンニュートラルに向けて取組むのか

- > 2012年ボイラー燃料をガス化、省エネ成型の推進...2004年の約4割削減
- > 営業車の電動化とフォークリフトのハイブリッド化
- > 場内で、使用済み発泡スチロールの減容処理→リサイクルに①『バーজন原料で製品』→②『リサイクル原料で製品』→廃棄=③『助燃剤』
- > 『長期使用材重視』を重視した取組み(約7割強が長期使用材)
- > 発泡スチロール協会(JEPSA)の主動で住宅用断熱材用途を広げる『施工型式認定取得』『防火認定取得』...
- > 生物由来素材や天然材を原料として製品開発



2020年度活動報告

1. 発泡スチロール(EPS)業界の環境 (『分野別需要動向』) 1

2020年の国内生産EPSの合計出荷量は、113.675トン(対前年96.3%)長期使用製品割合は、28.4% EPS輸入量は、5.934トン(対前年89.4%)。用途は、水産・農業分野(70%)、建築材(30%)と推定。

<以下国内生産EPSの分野別需要動向>

水産分野
イカ、サワナギ等の不漁や新型コロナウイルス感染症拡大による飲食業への影響があったものの、出荷量は、48,063トン(前年比97.0%)と落ち込みは最小限にとどまりました。
対前年同期比: 1Q:100.5% 2Q:91.0% 3Q:94.3% 4Q:102.5%

農業分野
EPSの食品鮮度保持機能を活かし、賞味期限の延長や食品ロス低減を期待した容器需要等が堅調でした。出荷量は、11,357トン(前年比100.1%)と前年並みの数量を確保できました。
対前年同期比: 1Q:110.9% 2Q:91.4% 3Q:92.7% 4Q:107.7%

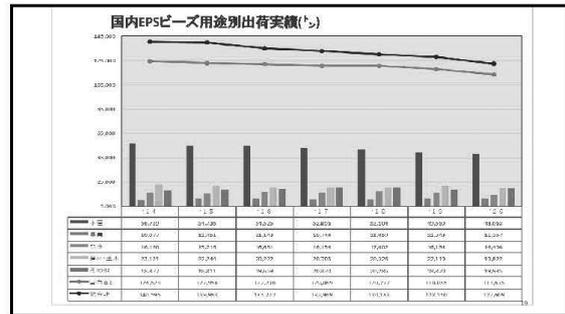
建築分野
新型コロナウイルス感染症拡大による海外部品供給切迫等による国内生産減少の影響があり、出荷量は、14,489トン(前年比89.7%)と大幅な減少となりました。
対前年同期比: 1Q:92.8% 2Q:81.9% 3Q:90.0% 4Q:94.4%
建築材が79%、エアコンのドレンパンケーシング、冷蔵庫断熱材等の部材は21%の出費比率でした。

2020年度活動報告

1. 発泡スチロール(EPS)業界の環境 (長期使用製品比率: 28.4%)

長期使用構成比

分野(用途)	2020年1~12月 平均値	具体的用途例
水産	0.1%	魚類関連など
農業	0.2%	水耕バケルなど
包装	21.0%	エコキュート®・エアコンドレンパン、
建材・土木	99.1%	EPS建材・土木ブロック・蓋上げ材・ポイド・炭暖パネルなど
その他	47.7%	自動車部材・住設機材・ビーズクッション・ヘルメット芯材など
合計	28.4%	※建材・土木分野での短期使用品、化繊型枠



2. 発泡スチロール(EPS)の資源循環

マテリアルサイクル(MR)量については、協会のアンケート調査から算出しています。全国の卸売市場、資源再生事業者、自社リサイクル処理の一般事業者(スーパー、生協、百貨店、等)、リサイクル処理施設を有する自治体、エプシープラザ(協会のリサイクル拠点)の皆様のご協力に基づき算計・分析しています。

エネルギーキャリアー(ER)量、未利用量(単純焼却・埋立等)については、「プラスチック資源利用協会」の「プラスチック製品の生産・廃棄・再資源化・処理処分状況(マテリアルフロー図)」のデータをベースに算出しています。

2020年 EPSビーズ出荷実績(輸入品を含む)は、122,609t、前年比95.7%。
 <国内産 113,676t (対前年96.3%)、輸入品 8,934t (対前年82.4%)>
2020年回収対象量は、EPS製品出荷量 115,253t(EPSビーズ出荷量より推計)から、耐久消費材として算出されない(廃棄出荷分の排出推定量は控除) 11,631t を差し引き、家電製品の輸出入差の入給に由来する包装材推定量 7,404t を加えて、合計**111,024t**としております。
 又、使用済みEPS製品回収対象量の10%が自治体回収(一般廃棄物)、90%が事業者回収と推計しています。
 ☆ 2020年の使用済みEPSの**有効利用率は、90.8%**となりました。
マテリアルサイクル率は、52.9%、エネルギーキャリアー率は、37.9%、
 単純焼却・埋立等の未有効利用率は、9.2%となりました。

